

令和7年度(2025年度) 第3回 函館市地域学校協働活動連絡会議 会議録

日時	令和8年2月10日(火) 10:00~12:00
場所	南北海道教育センター 大会議室
参加者	四戸委員, 梅田委員, 京谷委員, 酒井委員, 齊藤委員, 三好委員, 吉村委員, 干山委員, 梶原委員, 阿久津委員, 郷六委員, 照井委員, 田中(真)委員, 松浪委員, 田中(慎)委員, 神田委員(16名)
事務局	中田教育政策課長, 山本主査, 石川主任主事(3名)

1 開 会

(事務局)

本日はご多用の中, お集まりいただきありがとうございます。ただいまから, 令和7年度第3回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては, 函館市情報公開条例第21条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては, 非公開となる内容がないと考えられますので, 全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

—異議なし—

会議終了後には, 発言要旨を取りまとめた会議録を作成し, 公表することとなっております。会議録の内容については, 公表前に, 発言のあった委員に確認していただく予定でありますので, よろしくお願ひします。

それでは, ここからは神田座長に会議の進行をお願いいたします。

2 趣旨説明

(神田座長)

それでは, 次第2「行政説明」について, 事務局からご説明願ひします。

(中田教育政策課長)

私からは, 「函館市の学校運営協議会における課題等について」ご説明いたします。お手元にございます資料をご覧ください。

—資料に沿って説明—

3 報告1 北海道教育委員会主催 地域コーディネーター研修会について

(神田座長)

続きまして、次第3「報告1 北海道教育委員会主催 地域コーディネーター研修会について」に入ります。

こちらは私が参加しましたので、私の方から報告させていただきます。昨年10月24日に、北海道教育委員会が主催する地域コーディネーター研修講座に参加しました。

研修では、コーディネーターに期待される力と題しまして、安平町教育委員会事務局 子育て・教育総合専門官 岡崎エミ先生の講義を受けました。

講義の中ではグループワークもあり、「コーディネーターとは何か」、「なぜコーディネーターが必要なのか」、「コーディネーターに必要な力とは」、「あなたの理想のコーディネーターとはどのようなものか」、「どのように必要な力を身につけていくか」などを参加者同士でディスカッションしました。

先生の方からは、コーディネーターには唯一解はないとのことで、それぞれのスタイルを確立することからスタートすることを目指すようお話がありました。

他にも、「コーディネーションとは一体何か」との質問では、「コーディネーションとは、様々な団体、企業、学校など、バラバラな人たちを1つの目的に向かうためにつなげる役割をいい、それを最短でできる役割を担うのがコーディネーターではあるけれども、色々な活動があるので、自らがその時の最適解を作っていかなければならない」とおっしゃっていました。

そして、一番重要なこととして、「コーディネーターは自分のやりたい教育を行う存在ではない」ということを挙げ、学校からの要望と地域人材それぞれの得意分野を踏まえて、どことどこを繋いだらいいかなどを考えることが地域コーディネーターの役割だとおっしゃっていました。

また、地域側にとってどのようなメリットがあるのかということも考えながらコーディネートしていくことも重要で、そのためにはやはりヒアリングが大事で、常に先生方や地域の方々とコミュニケーションを図りながら情報収集をすることの重要性についてもお話ししていました。

そして、活動には色々な地域の方のお力を借りるので、その方々のモチベーションを活用させていただくという点については倫理観が必要で、協力してくれた方々が不快な思いをすることがないように私たちが調整していかなければならないとのお話でした。

そして、活動をコーディネートしていく中で、必ず課題が生まれてきていると思いますが、その課題を解決することはなかなか難しい状況だと思います。だからこ

そ、関係者や地域コーディネーター間でコミュニケーションを図りながら課題解決に取り組んでいくことも重要だとお話されていました。

私は初めてこの先生から講義を受けたのですが、今まで自分でやっていたことを改めて考えさせていただけるような講義でした。以上です。

4 報告2 先進地視察（青森市）について

（神田座長）

続きまして、次第3「報告2 先進地視察（青森市）について」に入ります。

今回視察に参加しました梅田委員、および私神田から報告させていただきます。

まずは、梅田委員から、今回のフォーラムの様子や参加して学んだ内容など発表をお願いします。

（梅田委員）

11月12日に青森市教育委員会主催の定期フォーラムに参加して参りました。講師は国立教育政策研究所生涯学習政策研究部の志々田まなみ先生でした。講義の中では、学校と地域の目的は違うということをお話しておいておく必要があるということをお話しされていました。地域としては、学校のためにやっているものではなくて地域を良くするためにやっているという思いがあり、その上で、学校と地域はパートナーだという位置付けで、地域学校協働活動が栄えてほしいというお話でした。

今回の講義で、協力という言葉は、価値・目的が違うものに協力するということであって、皆さんがやっている協働、ともに働く、これは価値・目的が一緒だということをお話して確認した次第です。

わかりやすかったことは、学校で学ぶことと地域でやることはそれぞれにあって、そのかぶった部分を協働することが効果的なのだという事でした。特別なことをしなくても、目的をしっかりと持っていれば、自ずと次のステップが見えてくるということをお話して痛感しました。

最後に、青森市内の学校の事例発表でも、活動がさかんなところで必ず出ていた話は学校と地域との熟議です。まさに熟議に始まり熟議で終わるということに重きを置くことで結果に繋がっているのだと思いました。私自身も熟議の必要性を改めて確認し、今後の活動に生かしていきたいと思いました。以上です。

（神田座長）

ありがとうございました。では、私の方からも報告させていただきます。梅田委員がおっしゃったとおり、志々田先生の講義では、コミュニティスクールの活動

は、地域、学校、家庭がそれぞれに目的も目標も課題もバラバラな状態で参画しているため、良い活動をするためにはそのバラバラな目的や目標や思いを合わせなければいけないので、確認作業は必ず必要な作業であることから、熟議をして話し合うことは重要なことだと、何度もおっしゃっていました。

また、私の中で印象的だったことが、ある学校のコーディネーターさんの話で、産休代理の先生は学校のみんに紹介されているのに、自分は5年も同じ学校で活動しているにも関わらず学校に紹介されたことがないとふと思って悲しくなったとの話があり、それを聞いて私も悲しくなりました。皆さんは学校で紹介されているかもしれないですし、私も紹介されていないわけではないのですが、とても共感できました。

改めて、皆さんがやられていることはとても貴重なことだと思います。地域には地域の思いがあって、学校には学校の思いがある中で、地域と学校をつなぐということはとても難しいことです。

なので、学校にはせめて、自校の地域コーディネーターを紹介していただきたいと思いました。以上です。

5 意見交流

(神田座長)

それでは、次第5「意見交流」に入ります。

今年度最後の会議ということで、一人3分程度で今年度の活動の振り返りや来年度の計画など、お話し願います。

まず、梶原委員、お願いします。

(梶原委員)

北星小担当の梶原です。今年度の活動としては、夏休みに地域の人材を活用して、カーリンコンという軽スポーツをしました。北海道カーリンコン協会の方も7名呼びして、地域の方と保護者と児童を交えて大々的に実施しました。その準備の中で、どのように繋げていけばいいのかと悩みました。カーリンコンをするのは今回で3回目なのですが、今回はコースも作り、景品も用意して、大会のように地域と学校と協働して活動させていただきました。

来年度は、学校から防災教育にも力を入れたいという話があったので、自衛隊の防災講座を活用したいと考えています。

その他にも、北星小は一部で複式学級となっているほど児童数が少なくて、少人数だからこその悩みが出てきています。今学校から相談を受けているのが、新入生の下校の付き添いについてなのですが、私も仕事をしながらなので、地域にも協力

を呼びかけようと思っています。同時に、もし何かあった場合の保険やルールも考えなくてはならないので大変ですが、頑張っていきたいと思います。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、四戸委員をお願いします。

(四戸委員)

青柳中、青柳小、弥生小、あさひ小担当の地域包括支援センターの四戸です。

今年度は、青柳中の生徒にボランティアをしてもらう活動が何度もありました。中学生は大人が付かなくても言ったことをどんどんやってくれるので、即戦力となっています。校区内にある3児童館からは、行事などでボランティアが必要な時には私の方へ連絡をくれて、それを受けて私から青柳中に声をかけてボランティアに来てもらうというルートがすでに確立されています。児童館の館長方や中学校の先生方とも関係性が築けているので、すぐに調整してくれています。児童館の行事では、町会の方や母親クラブの方も手伝いに来てくれるので地域内の多世代交流ができていますし、その中でも中学生は本当によく働いてくれています。

今後は、まだ関わりが薄い町会やマッチングできていない地域もあるので、こちらから働きかけて、人手不足や担い手不足解消のお手伝いをしていきたいと思っています。

(神田座長)

ありがとうございます。次に、三好委員をお願いします。

(三好委員)

えさん小、恵山中担当の三好です。今年度は、組合や漁協などの地域の協力を得て、磯遊びをしました。今年度から小学校と中学校の学校運営協議会が合同となったので、一緒に夏休みに磯遊びをして、小学生は生き物を探したり、中学生はビーチフラッグやビーチバレーをして大変盛り上がりました。子どもたちにとって良い夏休みの思い出を作れたと思います。

10月には、恵山登山を予定していたのですが、熊の出没等が相次いで中止となりました。

そして、私の提案で、8月末からは週に1回バドミントンクラブをすることになり、そのために学校から体育館まで付き添ったり、保険の手続きをしたりしています。コーチにも付いてもらい、子どもたちはすごく上達しました。

来年度は、小中連携しての運動会を検討しています。以上です。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、吉村委員をお願いします。

(吉村委員)

巴中担当の吉村です。今年度の活動としましては、定例行事として、平日の図書館の放課後運営に関わる地域ボランティアのコーディネートと、夏休み、冬休みに中部高校とコラボしてやっている学習サポート会があります。学習サポート会では、夏も冬も高校生が60名位来てくれて、中学生とマンツーマンで勉強会を行いました。秋には、地域のユニークな人材をお呼びして講演会をしており、これも盛況で幕を閉じることができました。そして、今年度の最後の活動として、生徒代表と一緒に、受験合格祈願のため、地域にある高盛金刀比羅神社の祈願祭に参加してきます。

この地域学校協働活動をしていくうえで、関係者との意識の差というのはいつも感じるのですが、これはお互いに歩み寄るしかないものと思っています。

それから、私たちの活動にもっと消耗品以外で使える予算をいただきたいと切実に思っていますので、ご検討をお願いします。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、齊藤委員をお願いします。

(齊藤委員)

北中と北日吉小担当の齊藤です。今年度の活動としましては、9月に地域を知ろうという特別授業の講師を何人かコーディネートさせていただきました。子どもたちに講話してもらおうということで、学校側からも講師について要望があったので、地域を知ろうというテーマに沿って、水産加工の方や海産物を多く扱う飲食関係の方、通訳の方、脳神経外科医の方、ジビエ専門店の方などへ講師をお願いしました。私はこの中の通訳の方の話聞いたのですが、通訳という仕事は言葉を訳すだけでなく、意図を汲み取って、それを相手方に伝えるということが一番重要だという話があり、とても共感できる内容でした。そして、今年度はこれから防災教育の授業の講師もする予定です。

これらの活動の打ち合わせなどで先生方と話をしていると、これからは学力向上という点も踏まえた準備が必要になってくるのだろうと思いました。以上です。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、阿久津委員をお願いします。

(阿久津委員)

千代田小担当の阿久津です。千代田小では、休み明けに見守り活動をしました。見守り時には、町会の方などに、子どもたちに安心できるよう千代田小応援隊の目印である黄色いバンダナを付けて活動をしてもらいました。

その他にも、児童館で月1回、子どもたちと一緒にモルックをするモルッククラブをやったり、地域交流としてのモルックも、月に1回、梁川公園でやっていて、

地域と子どもたちの交流を深めているところです。最後の回では、地域包括支援センターときとうも交えて、ちょっとした大会みたいなものやってみて、地域との交流ができたと思います。

先ほど他の地域コーディネーターから、学校の困りごとに対するサポートの話がありましたが、千代田小は児童数も少ないですし、先生たちだけで成り立っているところも多くて困りごとがないという状態で、地域コーディネーターとしての出番が少ないというのが気になるころではあるのですが、その分学校の外での繋がりを作っておいて、いざという時に学校と地域を繋げられるように準備しておこうという思いで、来年度も続けていきたいと思っています。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、田中委員をお願いします。

(田中委員)

亀田小担当の田中です。私は昨年度から地域コーディネーターになって今年で2年目になるのですが、昨年は何から手をつけていいのかもわからず、学校側も地域コーディネーターの役割をあまり把握していない状況もあり、学校からの困りごとや要望もあまり出てこないという状態だったのですが、今年はPTA会長になったということもあって、学校の方から少しずつ要望について相談を受ける機会が増えてきて、だいぶ活動しやすくなってきました。

今年は、まだ地域の方へのお手伝いというのは難しいのですが、学校への支援としては、PTAや保護者の方と5、6年生のミシン学習の補助に入ったり、地域包括支援センター西堀と一緒に認知症サポーター講座や社会福祉体験、認知症カフェなどを通して多世代交流をしました。ミシン補助は保護者のお手伝いが少なく、いつも同じ人が来てくれる状態だったので、来年度は地域の方にもお声がけしてお手伝いしてくれる人の枠を増やしたいと思っています。

あと、私がキャンドル作家をしていることもあって、亀田小の支援級の先生たちから余暇支援活動について相談がありました。そうした相談が形となり、12月に支援級の子どもたち向けのキャンドルづくりのワークショップを行いました。

来年度の活動については、畑の作業のお手伝いや片付けなど、学校から相談されているので、地域の方にも声をかけながら進めていきたい思います。

また、支援級の担当の先生から、子どもたちに調理実習の体験をさせたいとの話をいただいているので、小学校の近隣の調理科のある高校の先生たちと相談しながら、高校生と一緒にやる調理実習を検討しています。実現すればそれはすごく良いCSの活動になると思っています。

他にも、地域包括センターの方たちから、子どもたちと一緒に地域ケア会議をしたいという要望もあるので、少しずつ段階を踏んで、子どもたちにも地域のことを

考えてもらう機会を増やしていき、数年後には地域の方も含めたケア会議ができるような動きをしていきたいと思っています。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、松浪委員をお願いします。

(松浪委員)

東山小担当の松浪です。東山小はキャリア教育に力を入れていて、6年生では職場体験もしています。小学校で職場体験をしている学校はあまりないのですが、東山小は産業道路に面していてお店がたくさんあるので、地域にある企業や団体に職場体験の機会を設けていただけるようお願いして回りました。6年生以外にも、同様に企業と連携して行う活動があったのですが、なかなかうまくできなかったのが反省点です。東山小はもともと町会とPTAが活発だった地域ではあるのですが、なかなか繋ぐのが難しいところもあって取組に繋がれなかったのですが、皆さんのお話や青森の研修の話を聞いて、自分で勝手に苦手意識を持ってしまっていたなどすごく反省しましたので、来年度に生かしていきたいと思います。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、酒井委員をお願いします。

(酒井委員)

五稜郭中、万年橋小担当の酒井です。今函館市の高齢化率が35%くらいの中、私たちの地域は40%になっており、そんなに高いんだと知って驚きました。私たちの地域ではこの高齢化に伴って、地域とボランティアを組み合わせることがすごく難しい状態にあります。色々なところと繋がらないと、ボランティアを集められなくなってきているので、企業や大学生など、色々なところと繋がりを持って、その人たちを巻き込んで、活動に繋がれようと頑張っています。

今年度は、五稜郭中で、2つの活動をさせていただきました。1つ目が、毎年行っているキャリア教育です。今回、先生から、キャリア教育は1、2年生と継続した学習となるので、講師が2年とも同じ顔ぶれとなっていることについてどうすればよいかと相談があったので、今回は、新たに繋がった人の中から弁護士などの今までとは違うパターンの方々を講師として呼んだところ、子どもたちにも好評だったとのことで、人と人との繋がり的重要性を改めて感じたところです。

そして、もう一つの活動が実践的防災教育です。この活動では、地域の方々や市の災害対策課など、色々な方々が協力してくれて、子どもたちにとって地域の担い手であることを意識してもらう大変良い機会となりました。

この活動の実施時期について学校と打ち合わせをした際に、総合学習での実施ではどうかと話したところ、2月の段階で既に総合学習の内容が決定されていたので入り込むことができず、家庭科の先生から家庭科の授業としての実施をご提案いた

だったので、実施することができました。私自身、予定は早めに組まなければならないと大変勉強になりました。

小学校に関しては、例年同様、色々な活動をさせていただきましたが、今回は新たに秋祭りを実施することができました。急遽決まったことではあったのですが、うまくPTAと組むことができました。今までPTAと組んで活動することがなかったので、思い切ってPTAの会長に電話をかけたのですが、快諾していただきました。中学生にもボランティアとしての参加を呼びかけ、自分たちで企画も運営もすべてしてもらいました。当日は参加者が来るのかと不安になるくらい悪天候ではあったのですが、70人ぐらい来てくれて、子どもたちにとってもすごく良い経験になりました。このときも、先ほど言っていた繋がり大切さを感じました。私も町会の役員なので、町会の方にも声はかけるのですが、やはり高齢化という課題がある中で自分たちだけで何かをやろうとすると難しいこともあるので、子どもたちにも協力してもらっているのですが、子どもたちも地域と関わることで自身の学びにも繋がっているように感じます。

次年度については、町会で持っている畑を幼稚園の子どもたちに貸しているのですが、学校にも畑があるので、別々にではなく、一緒にやっと思いと思っています。そうすることで、私たちの負担減にもなるし、一緒にできるものは一緒にやっっていく方がこれからはよいのではないかと思っています。また、来年度は学童とPTAと学校とで一緒に活動したいという声があったので、今までにないパターンも取り入れながら活動していきたいと思えます。

(神田座長)

ありがとうございました。次、照井委員お願いします。

(照井委員)

昭和小は、見守り隊を発足してから何年も経つのですが、協力者の数が伸び悩んでいます。うまく回していくためにはどうしたらいいかということを経験と相談して、全市パトロールに町会の方が来た時にすぐ協力者の登録ができるように申請書とバンダナを用意しておいて、その場ですぐ渡せるようにしたところ、4、5名の方にその場で登録していただきました。今後も少しでも登録者を増やしていきたいと思えます。

他にも、昭和小はPTA活動がすごく盛んで、向かいにある高校とも既に学校は連携しているのですが、別々に活動しているので、まとめてコーディネートできないかと思い、地域包括支援センター亀田主催の地域の方々が参加する地域ケア会議の中で、私の方から地域学校協働本部のような組織を作りたいと発信したところ、皆さんの了解をいただいたので、新年度はその形で動いていきたいと思えます。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、郷六委員お願いします。

(郷六委員)

高丘小担当の郷六です。今年度、高丘小では、ふるさとクリーンアップデーというのを行いました。リサイクルするものを探して学校に持って帰ってきて、ごみを分別しながら、空き缶やスチール缶、アルミ缶は、リサイクルすると自転車でフレームや自動車の部品になったり、お菓子の空き箱は雑紙やティッシュになるということ子どもたちに認識してもらい、ゴミとリサイクルについて考える意義のある活動になったと思います。

その他にも、冬場にはそば打ち体験を実施しました。小学校の校長先生は昔私と同じそば打ち仲間だったので、子どもたちにもそば打ちを体験させたいと意気投合して実施することとなりました。私どもの地区は人材に恵まれていて、退職校長も多いので、その中から1名の方にそばの由来について講義してもらいました。子どもたちは、そばの種が初めて中国から四国に渡って、縄文時代からそば打ちが始まって、江戸時代で初めて切ることを覚えて、今のそばに繋がったというそばの由来を学習することができました。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、田中委員お願いします。

(田中委員)

市立函館高校担当の田中です。先日、道内の色々な高校のCSの取り組みに関するオンライン発表会に参加して、他都市の事例としてお祭りの手伝いなどがあったのですが、函館に置き換えて考えた時、いか踊りでは活動には繋がれそうにもなく、他都市のアイデアを取り込むこともなかなか難しいと感じたところです。

今年度の市立函館高校での活動に関しては、キャリア教育の中で毎年社会人講話をやっていて、銀行員、経営者、林業従事者、弁護士、あと私も含めて5人で講話をしていて、それを聞いて生徒たちに大人になったらどのように社会貢献するのかを考えもらっています。この活動はもう何年もやっています。

私は自分の会社が中島小校区にあるので、中島小の学校運営協議会委員もずっとやっているのですが、校区内にある中島児童館の餅つきを手伝ったり、自分の会社にあるフリーエリアの活用について中島小に過ごし方のルールを作ってもらって、それに従って子どもたちの見守りもしています。

他の学校でも、PTA秋祭りにバンドをやったり、モルックをやったりしています。以上です。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、干山委員お願いします。

(干山委員)

桔梗中担当の干山です。私の場合は、学校が地域と繋がるというよりも、地域が学校と繋がりたいという気持ちの方が強くて、今年度で3回目となりますが、地域包括支援センターと桔梗町会と学校と一緒に多世代交流をしています。過去2回実施してみて、最大の反省点として、集客の少なさがありました。そこで、今年は気合いを入れて集客を増やそうと思い、新聞に取材をしてもらったところ、200人の方に来ていただきました。中学生のボランティアも設営と撤去で合わせて30人来てもらいました。最初はみんな指示を待っている状態だったのですが、ある程度会話をして関係性ができてくると生徒の方から聞きに来てくれるようになりました。その様子を見て、お互いの信頼関係がしっかりできていれば、活動はすごくスムーズにいくものなのだと感じました。

今年度は、桔梗小のPTAからも運営への参加希望があり、1ブースをお任せして昔遊びをしていただいたところ、今まで高齢者しか来なかったものが、子どももたくさん来るようになりました。それを見た中の沢小のPTA会長からも参加希望があり、来年度からは実行委員会に入ってもらうことになったので、あわせて桔梗中のPTA会長にも実行委員会に入ってもらうことにしました。最終的には、その実行委員会に児童生徒が入って、子どもから企画を提案してもらうところまでできるようになればいいなと思います。

このような活動を進めていたら、町会の運動会でもボランティアが30人くらい来てくれるようになりました。他にも、地域包括支援センターからお年寄りと若者の接点を作りたいとの要望を受けて一昨年実施した、中学生によるお年寄へのLINEの使い方講座がすごく好評だったので、今年も実施することとなったのですが、同じ内容では面白くないので違う企画を考えたところ、推し活講座を実施することとなりました。お年寄りが推す存在というのが私たちが想像していたものと全く違って、話は大変盛り上がりました。またこの企画もやっていきたいと思います。

振り返ってみると、色々なところに色々なアイデアがあるのだなと感じました。来年度も、この多世代交流を続けていくことが決まっているので、またパワーアップしたご報告ができると思います。以上です。

(神田座長)

ありがとうございました。次に、梅田委員お願いします。

(梅田委員)

港小・港中担当の梅田です。私の活動としては、学期ごとの見守り活動や9月1日の港地区の防災の日の活動をMAPSという組織を作ってずっとやり続けているのですが、学校側も日程を合わせ、定着してきたところではあります。

今港中ではCSのために会議室も作ってくれていて、教頭先生もとても一生懸命なので、何かできればと思っているところです。以上です。

(神田座長)

ありがとうございました。今年度1年間、統括地域コーディネーターとして、皆さんの活動にも色々と参加させていただきました。千代田小のモルック大会に出たり、亀田小のキャンドル作りや巴中の学習サポート会も見に行きました。まだ活動を見に行けてないところもたくさんありますが、広報誌の取材や面談などを通して、活動するのがなかなか難しいところもたくさんあるというお話も聞いています。そのような中で、皆さんがそれぞれ自分の強みを生かして、一生懸命頑張っているのをとても感じています。先ほどお話があったとおり、学校の内部だけで活動が充実しているところでは「私は地域コーディネーターとして何をしたらいいのだろう」と迷うのもよくわかります。

私たちは学校の推薦を受けて地域コーディネーターになっているのだから、学校の中の子どもたちの学習環境を整えて充実させていきますが、そこに地域の力をどのように入れ込んでいくかと皆さん頭をひねらせながら頑張っていると思うのですが、それがなかなか思うようにいかないときもあると思います。本当は学校運営協議会の中で話が進めばいいと思うのですが、なかなかそれも難しいと思うので、地域の児童館や町会など、地域にそれを落とし込んでいくということも1つの手だと思います。青森の研修の中でも、学校も地域の一員と考えると、学校が中心というよりも、地域の中にある学校だから子どもたちが参加するという考え方もあるという話もありましたので、参考としていただければと思います。

今回、皆さんが色々な課題を解決するためにこういうふうにしていこうという意気込みが聞けて、私もすごく勉強になりましたし、私も頑張らなければいけないと改めて思いました。

私は、函館市の第一層生活支援コーディネーターという仕事もしていて、その中で学校と関わることとして中学校の制服リサイクルの活動をしています。今まではPTAで回収してバザーで売っていたと思うのですが、私たちはそれを活用して、地域包括支援センターと連携しながら、介護事業所の高齢者の社会参加に繋げる活動をしています。高齢者の方に制服の修繕や洗濯をしてもらって、きれいになった制服をその中学校の皆さんにお渡しするというものです。このような学校と関わる活動をしていくと、学校側の意向を汲むために、地域コーディネーターの力がとても重要になってきますので、今後も皆さんのお力をお借りして、学校と地域を繋ぎながら進めていきたいと思っています。

今日は皆さんのお話を伺って、大変参考になりました。

今日の意見交流会はここまでにしたいと思います。ありがとうございました。

それではここで中田教育政策課長から一言お願いいたします。

(中田教育政策課長)

本日は長い時間ありがとうございます。また、この1年間、学校と地域のパイプ役としてご尽力いただきまして本当にありがとうございました。

今年度は統括コーディネーターとして、神田座長にも皆さんの活動を見に行っていたり、皆さんからいただいた活動報告書や通信等を見させていただいて、皆さんの活動を知っているつもりだったのですが、今、皆様からのお話を聞いて、その活動を実現するために、皆様が自分の時間を削って、ときには苦しい場面もありながら、心を砕いて活動していただいているということ意識する機会となりました。ありがとうございました。

私の方からは1つだけお話させていただきます。青森市の研修でもご講義いただいた志々田先生がおっしゃっていた言葉がありましたので、ご紹介させていただきます。「地域学校協働活動がうまくいくコツは、できる人ができることをできる形です。無理をしないでできる程度の大きいことじゃなくて小さいことで、大切なことより楽しそうなことから取り組み始めていくことが大切です。」この言葉のように活動を進めていくことで持続可能な活動に繋がっていくのだと思います。皆さんは子どもたちの笑顔や将来のために活動いただいていることと思います。苦しい部分もあるかと思いますが、これからも函館市の子どもたちのためにお力を貸していただければと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

6 その他

(神田座長)

最後に、次第6「その他」ですが、事務局から何かありましたらお願いします。

(事務局)

—事務連絡—

7 閉会

(神田座長)

以上をもちまして、令和7年度第3回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。